

ワークショップ「非 B 非 C 肝癌スクリーニング」

司会：森山 光彦 先生（日本大学医学部内科学系 消化器肝臓内科学分野）

西口 修平 先生（兵庫医科大学内科学 肝胆膵科）

【司会の言葉】

WHO は肝炎ウイルスを 2030 年までに根絶することを宣言した。わが国では肝癌死亡は依然として 27,000 人を超えているが、新規の肝炎ウイルス感染がほぼ終焉したことに加えて、C 型肝炎に対する DAA 製剤の使用により HCV 関連の肝癌は減少し、HBV 関連肝癌も HBV ワクチンの導入により今後は減少する。この一方で非 B 非 C 型肝癌はすでに増加しており、初回肝癌治療例の半数を超えている。

一方、わが国の糖尿病患者は 300 万人強、予備群を含めると 1000 万人を突破すると予測されており、今後、肝癌のリスクを有しているこれらの生活習慣病に関連した非 B 非 C 肝癌の増加が予測される。すでに肝炎ウイルスキャリアに対する効率的な肝癌のスクリーニング法は確立されているが、非 B 非 C 肝疾患にはそのまま適応できない。本ワークショップでは一般住民や肝障害患者の中から、どのようなリスク因子に着目し、さらにどのような検査法を用いて、ハイリスク群を囲い込み、効率的に非 B 非 C 肝癌をスクリーニングすべきかを討議する。